

第102期技術と社会部門部門長挨拶

日本機械学会第102期技術と社会部門部門長
加藤義隆(国立大学法人大分大学 助教)

挨拶冒頭で会員皆様に二つお願いをします。まず、「既存の枠組みで発表し難い取り組み」は技術と社会部門で紹介してください。また、催しに参加して直接顔を合わせて色々話をしてください。

2024年度の1年間、大分大学所属の加藤義隆が日本機械学会技術と社会部門の部門長を務めます。以下では、「冒頭のお願いの意図」「副部門長を経ない部門長就任の経緯」「部門運営」について記述します。

まず冒頭のお願いの意図です。日本機械学会や技術と社会部門が活動をしなくても、直近で社会は破滅しません。新しい事に取り組まなくても、今まで通りのことは出来ます。しかし例えば、20世紀後半の



中国で技術的な発展が遅れたように、取り組みが不十分だった分野は廃れます。無駄とリスクはゼロにならず、「日の目を見る見込みが薄い取り組み」を無駄と斬り捨てるなら、何も起きません。学術講演では「こんな発表をして良いのか」と遠慮せず、講演時間の範囲内でアピールして頂きたい。面白い講演なら、セッション終了後に話が弾むと思われま。一方で、既存の枯れた技術が無ければ、従来通りのことも出来ません。枯れた技術の獲得には、文献だけでなく、人から直接学べる機会が有益です。直接会う機会を利用してください。なお技術と社会部門の事業の運営は、関係者の手弁当の活動に支えられております。事業運営の不備や不足について、多少の粗は目をつぶってください。過去に技術と社会部門で騒動を起こした方がいるので、誰でも受け入れる訳ではありませんが、手伝いも申し出てください。

2024年度の技術と社会部門では、2023年度の高藤副部門長の体調の都合で、「副部門長を経ない部門長就任」が生じました。従来の副部門長選挙に不具合もあったため、部門長と副部門長を選考する規定が変更されました。私は、規定変更の際して「部門長を直接選ぶ」ことは反対していましたが、唐突に部門長になってしまいました。私はスターリングエンジンの催しを好き放題企画運営させて頂いた恩もありますので、そのまま引き受けた次第です。

さて「部門運営」ですが、技術と社会部門の各所属委員会には協力をお願いします。私は過去の部門長と異なり、各事業の細部に関与できません。私は、繊細さが取柄ではありませんし、共稼ぎで子育て中のため、1日12時間働く日々を毎日続けることもできません。不特定多数が閲覧可能な挨拶にあえて記載しますが、運営関係者に以下のお願いをします。

各所属委員会において、2024年度の事業の会告案と予算案を、2023年度委員の協力を得て作成して、早めに運営委員会の承認を得てください。また、所属委員会の委員に新規委員の参画も検討して名簿案を作成して提出してください。運営委員会および総務委員会にて、事

業の作業状況など進捗や実施報告をお願いする予定です。なお、場合によっては総務委員会にて開催日や会場を調整したいと考えています。

9月の年次大会開催期間中を目途に、2025年度の予算案作成のために、各所属委員会で次年度の活動計画を作成して頂きます。

部門講演会開催時期を目途に、2025年度の委員長・副委員長・幹事について各所属委員会で候補者の推薦を依頼します。その推薦は、2025年度の部門長が部門運営通則に従って2025年度の各所属委員会委員長を指名する際に、参考になります。

運営関係者は、自分が参加したくなる催しになるよう、各所属委員会で活動してください。所属委員会が、決められた役割以外の活動を画策することも歓迎します。新規事業の提案は、いつでも議論可能ですが、11月上旬の予算案提出に間に合う方が円滑です。

なお意見募集の制度はありません。是非とも委員会や催しに参加して懇親を深めてください。COVID-19以前の委員会は、終了後に個人的な酒席がありました。酒席は、大半が駄話でも、引継ぎや新規提案の機会でした。例えば引継書は、報酬の無い学会運営で、詳細に作成されることも読まれることも稀です。一方、酒席は、記憶に残る事柄が選択的に話題になります。新規提案も、歓談中なら資料作成不要で、衆人環視の委員会よりも意見交換は闊達です。飲酒の有無はともかく、学会が交流の場として機能するよう、皆様の協力をお願いします。

2024年4月

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <https://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.49

(C)著作権:2024 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門